

閉鎖的水域におけるミシシippアカミミガメの駆除とニホンイシガメ個体群の変化

片岡友美・岩本愛夢・佐藤方博（認定 NPO 法人 生態工房）

The removal of red-eared sliders and the change of the population of Japanese pond turtles in closed water area

By Tomomi KATAOKA, Aimu IWAMOTO and Masahiro SATO

ミシシippアカミミガメ（以下、アカミミガメ）は 1960 年代からペットとして流行し、その後、各地で遺棄や逸出によって野生化個体が増え、都市部の水辺で最も多く見られる淡水ガメである。一方、在来種ニホンイシガメ（以下、イシガメ）は、近年、都市化の著しい平野部を中心に急速に減少し、2010 年東京都レッドリストでは絶滅危惧 IA 類 (CR)、2012 年環境省レッドリストでは準絶滅危惧種 (NT) に指定され、危機的状況に陥っている。イシガメの減少要因は、都市化による水辺の環境悪化が大きいと考えられているが、このほかにアカミミガメの侵入もイシガメの減少に影響していたかどうかについては、知見や検証事例が少なく、野外における 2 種の関係は明らかにされていないところである。このため、本報告ではアカミミガメが優占していた池で 10 年間駆除を行い、この間のイシガメ個体数と背甲長分布の推移を明らかにした。

東京都練馬区にある三宝寺池は武蔵野三大湧水池の 1 つとして、かつては豊富な湧水があり、多様な水生生物が生息していた。当池の生物記載では、1962 年までアカミミガメは確認されず、イシガメしか記載されていなかった。しかし、1982 年にはアカミミガメが確認され、イシガメの記載はなくなった。演者らは 2007 年から 2017 年まで毎年ほぼ同時期に同程度の捕獲努力量でアカミミガメの駆除を行った。この際に捕獲されたイシガメは標識再放流を行い、性別や甲長サイズを記録した。アカミミガメの駆除数は 2007 年に 130 個体、2008 年に 57 個体、2009 年に 29 個体と徐々に減少し、2014 年から 2017 年は各年 6-12 個体となり、本種は極めて低密度になったことが示唆された。一方、イシガメの推定個体数は 2008 年に 10 ± 3 個体、その後 2016 年に 34 ± 24 個体と調査期間を通して最大になったが、2017 年には 15 ± 7 個体に減少した。イシガメについては、この 10 年間で明らかな増加傾向は見られなかった (Petersen 法 Chapman 修正式、95% 信頼限界)。しかし、イシガメの背甲長分布は 2010 年から毎年 90mm 以下の若齢個体が確認され、当池で繁殖している可能性が示唆された。当池においてアカミミガメは駆除によって低密度になり、イシガメは定着しているが、イシガメの個体数が回復するには 10 年よりもっと長い時間が掛かる可能性が示唆された。